

はばたき



NO.22

1987.7

神戸市立王子動物園

発想の展開?

惜しくも第一回古賀賞は逸したが、園の入口に入って直ぐ左側に、わが園が誇るフラミンゴ池がある。ここ数年の間にわが国の動物園ではかつて得られなかった数のフラミンゴの繁殖に成功した貴重な一群である。

こうなった切っ掛けは、ほんのちよつとしたヒントから生れた。わが国の動物園の多くでは、ガンやカモの類の展示は、ケージの中か、園内の池に風切り羽を切って、さも自然であるかの様に飼育している。そのため毎年羽を切る作業が必要で、鳥達にとっては大変迷惑なことで、自然界と較べると遙かに狭い場所での生活を余儀なくされている上に、たとえ短時間でも人の手に捕らえられたストレスと捕獲保定時には骨折等の怪我をおこしやすい。

フラミンゴを飼育して20年になるが、その間僅かに一羽人工でフ化しただけであった。

昭和58年春からフラミンゴ池全体に農業用の防鳥ネットを張った。ネットを張る目的の第一は、脱出の防止であるが、ヒナがかえったときカラスから守るためでもあるが、同時にハトの餌取りも締め出すという思わぬ効果があった。

動物園の厄介者には、カラス、ハト、スズメが筆頭で、どこの園でもその処遇には頭を悩ましていところである。スズメは仕方ないとしてもカラス、ハトの締め出しは飼育管理上好結果が期待できた。

58年は3羽であったが、59年13羽、60年30羽、61年25羽、本年もすでに28羽のフ化をみている。たびたびネットの捕修は必要であるが、全面張り替えても僅かな費用である。ちなみに全国の繁殖状況を調べてみると、昭和60年では、75園館で2,490羽飼育されており、繁殖に成功したのは42羽だけで繁殖率は1.6%しかならない、その内29羽はわが園でのもので、他の74園館では僅か13羽だけである。

フラミンゴは、アフリカ、地中海、中南米に広く分布し、一群数は数十万羽から数百万

羽にも及ぶ大群で生息している。非常に賑やか好きの鳥と言える。それは繁殖期によく見られる、静かな場所より観客の直ぐ近くで好んで巣造をする。抱卵中は丁度井戸端会議のように隣同士でクチバシで争いをしているが、仲間の多くが巣立ちをする頃になると、大事な卵を放棄して仲間のところへ帰ってしまうものもある。

これはほんの一例であるが、考えてみれば、今までの飼育方法は、われわれ人間本位の考えをフラミンゴに押し付けていたもので、もっと早くからフラミンゴの身になって考えてやっていたら、繁殖も困難ではなかったと思われる。

種々な動物たちにも、今までよりも少しでも束縛しているものを取り除いてやる工夫が、彼らにとって僅かでも幸となればと、常々願って発想の展開をしているところである。

神戸市立王子動物園長 福岡 順三

もくじ

◆発想の展開?	2
◆フラミンゴの繁殖	3
◆飼育うらばなし	
●エミューの自然繁殖	6
●インドオオコウモリの人工哺育	7
◆さて、なんでしよう	8
◆動物育児日記	
●夜の動物観察記	10
●オソノプールで泳ぐペンギン、カワウソ	11
◆動物なぜなぜ問答	
●重たいソウの足はウマのヒツメのように固いのですか?	12
●動物もアクビをするのだろうか?	12
◆動物もの知り手帳	
●血統登録のお話し	13
◆動物科学資料館の手引き①	14
◆トピックス	15

表紙写真 カンムリソウル

(撮影 福田元二)

フラミンゴの繁殖

—飼育開始から繁殖まで—



当園のフラミンゴのヒナの誕生については本誌にも度々書いて来ましたが、繁殖を初めて5年たちましたのでこれまでの飼育状況ならびに繁殖状況をまとめてみました。

◆フラミンゴとは

フラミンゴは、外観はツルに似た所があり以前はベニヅルと呼ばれていた時期もありましたが、分類的には縁がなくコウノトリ、サギの仲間近くコウノトリ目に入れていましたが、ハクチョウ、ガンの仲間似た所（足に水ききがある、ヒナの様子、鳴声が以ている等）も有り、コウノトリ目とガンカモ目の中間的な所から今ではフラミンゴ目として独立させています。

住んでいる所は熱帯、温帯域の塩水湖、河口、海岸に住んでいる。南米に住んでいるものは標

高 4,500メートルの塩水湖で繁殖している。鳥類の中でも一番密群性が高くコロニー（集団営巣地）をつくって繁殖します。

餌は藻類、プランクトンが主食であり、嘴の中がくし状になっており水中で舌を使って嘴の縁から水だけをおし出し、微少な餌をふり分けて食べている。

世界中に3属5種が住んでいる。

●オオフラミンゴ（2亜種有る）

ヨーロッパフラミンゴ

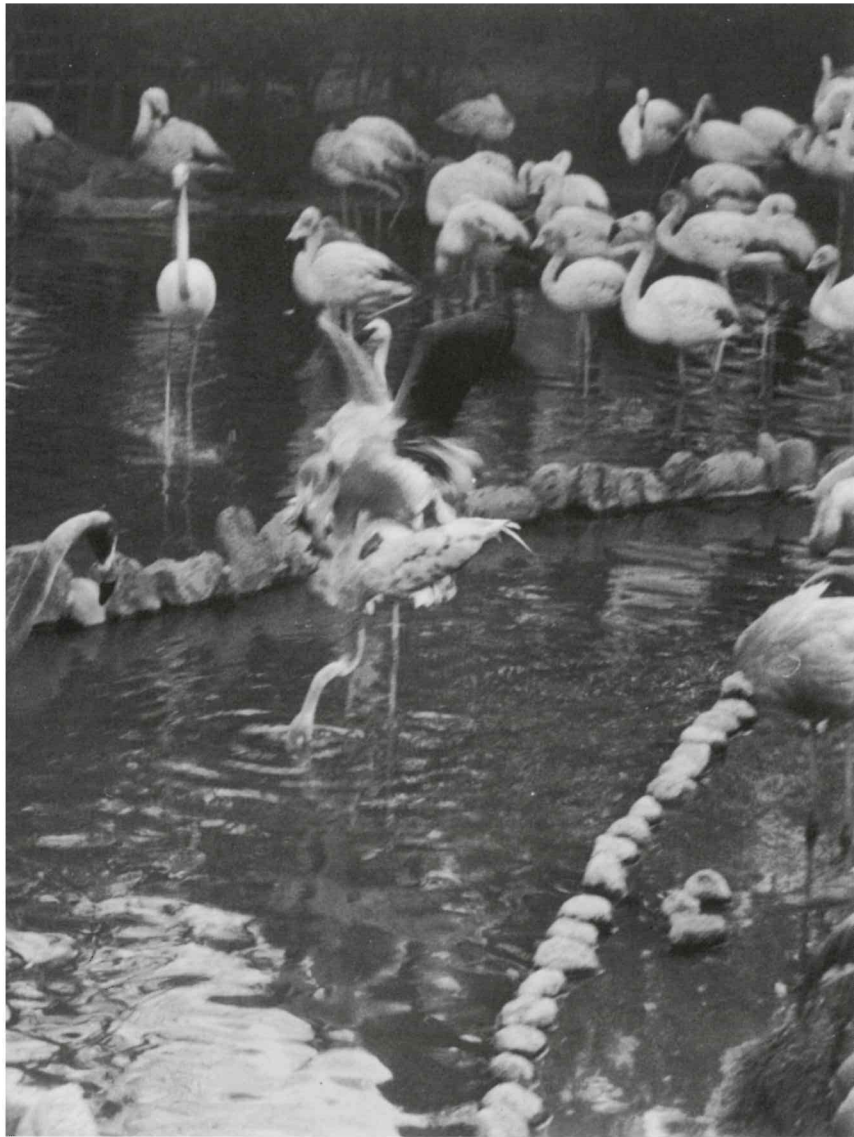
北アフリカ、南ヨーロッパ、カスピ海

ベニイロフラミンゴ

西インド諸島、ガラパゴス諸島

●チリーフラミンゴ

南アメリカ大陸南部



この様に繁殖が少ないのは、展示に重点をおいている為オープンケージで飼育している事が多く、翼の先端を切除、風切羽を切る際の捕獲、少数の飼育では繁殖行動が誘発されない、人工育すうが難しい等が上げられます。

当園に於いても、1963年から飼育を初めたが1969年までは数羽で、この年に現在の場所にフラミンゴ池を新設し、順次飼育数を増やし1980年頃には100羽前後になっていたが、オープンケージの為朝夕飼育場奥の夜間用ケージに出し入れしていたのと、風切羽を年に数回切っていたので、これでは自然繁殖は望めなく数個の産卵はあっても失敗していました。わずかに1977年に1羽が大変な努力の結果成育しただけでした。

1982年に自然繁殖が出来る様な飼育場に改造したところ、翌年より繁殖し始めたのです。

● レッサーフラミンゴ

アフリカ大陸の中部、南部

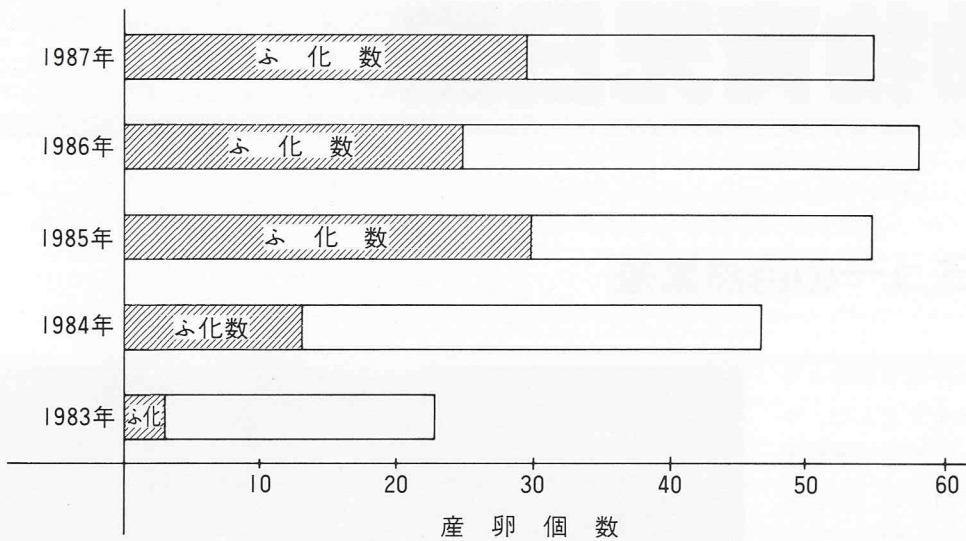
以上3種が各地の動物園で飼われており、残り2種のアンデス、ジェームスフラミンゴは、南アメリカ南部の高地に住んでおり、国内には数羽しか飼われておりません。

◆ 繁殖に向って

フラミンゴの飼育と言えば、今までは展示を目的として飼育しているのでオープンケージで飼っている所が多く、古くから各地の動物園で飼育しているのにもかかわらず、国内で初めて繁殖したのは18年前で、それ以後10年ほどは全国で年間数羽しか育っていない。1979年以後、繁殖する園が増え始めたが、それでも昨年に於いて75園で飼育しているが繁殖した園は11園にすぎません。

改良点は、夜間用ケージ出し入れ中止による野犬防止の為に外周フェンスの設置、プール内に島を新設の2点が主なもので、1983年だけは、助走防止用としてフラワーポットを随所に設置して飛翔防止としました。これは助走が出来ないと2mもある外周フェンスを飛び越えないと思っていましたが、春一番の風の時うまく風のり1羽逃げた為、1983年からは産卵もあったため、カラスから卵、ヒナの補食の害を防ぐのにネット張り、フラワーポットを取り除きました。

この時に逃げたフラミンゴが、住民の方から「ケガをしたフラミンゴを保護したので引き取ってほしい、場所は岩屋です」と電話があり、てっきり当園から2km程南にある岩屋と思い気安く「すぐ行きます」と言ったところ、「淡路島の岩屋」と言われ、動物園に収容したのが夜遅



くなったエピソードがあります。

◆ヒナ誕生

二月頃になると繁殖シーズンにそなえて準備作業に入ります。新しい土を入れ、たえず土をやわらかくしておきます。この頃にはフラミンゴの羽色も一段とあざやかになり、求愛行動を始めます。求愛行動には、主に3パターンがあります。首を空に向け一ぱいに伸び左右にふる、伸ばした首をやや前傾にして一定方向に走り出す、翼を半開きにしておじぎをする。この様な求愛行動の後、それぞれカップルができ、行動を共にする様になり、やがて交尾、巣作りとなります。

巣作りは、まず場所取りから始まり、鳴きながら激しくケンカし、強いカップルがいい場所を取り、場所が決まるとまわりの土を足もとに集め、除々に盛り上げていき高さ20cm位のおわんをふせた様な巣を作り、中央部のくぼんだ部分に1個産卵し、28日～30日間雌雄交代で抱卵、ふ化させます。抱卵中は、絶えず土を盛り上げるので巣の高さは、最終的には40cmから50cmにも

なります。

1983年23個産卵3羽ふ化、84年47個産卵13羽ふ化、'85年55個産卵30羽ふ化、'86年58個産卵25羽ふ化、'87年55個産卵28羽ふ化（6月30日現在）と順調にっています。

5年間に計99羽の多くのヒナを増す事ができ、フラミンゴ池を随分とにぎやかになりました。ヒナが多くふ化すると、ヒナ同志集まる様になりながら幼稚園の様になり、特に給餌時はよく集まり野生の再現といった所です。

（吉竹 渡）



動物育児日記

◆エミューの自然繁殖

昭和61年12月30日より産卵が始まりました。エミューの卵の色は濃緑色で1個の目方は、640g～700gもあり鶏の卵の12～13個分もあります。エミューは、雄が抱卵をし(ひな)を育てます。昭和62年3月8日より予備抱卵のため以前に自然抱卵したところ(エミュー舎の南西のコーナー)の地面を少しほってくぼみを



作りその上に藁を敷き巣座をこしらえ、エミューの卵を5個入れました。しかし抱卵するようすもありませんでしたが産卵する時は巣の中に産むようになりました。いつまでたっても抱卵するようすもみられませんでしたので隣にある小屋の中にも藁を10cmぐらいに切って入れていたところ、時々小屋の中ですわっている姿を見かけるようになってきました。そこで小屋の中にも卵を3個入れたところ、藁、ごみ、小枝、土などを集めて営巣を始めました。3月19日に卵を4個巣に入れて抱卵数を7個に増やしました。巣材が少なくてうまく巣が作れないように見られましたので巣材(乾草)を入れてみたところ嘴で卵の周囲に巣材を運び、そうして卵を嘴でととのえてから卵の上に座り自分の体の回りにも巣材を嘴で運び抱卵を続けるようになりました。(雌)のエミューは、日中警戒のため巣の回りをうろうろしていますが清掃作業のためにエミュー舎内に入ると、首をのばし羽毛を

立て、巣に近かづけないように威嚇してくるようになりました。夕方になると(雌)のエミューは、小屋の中に入って(雄)によりそって座わり夜間も警戒をしていました。3月21日に、予備抱卵させていた卵と新しく産卵した卵8個を入れ替える作業をしましたが(雄)が巣から立たないため強制的に(雄)の腹部に手を入れて1個づつ交換してみたところ予備抱卵中に1個産卵したらしく日付の無い卵が出てきたものを含めて9個を抱卵させました。4月19日に巣の中を見ますと、抱卵を始めてから8個産卵して合計16個の卵を抱卵していました。抱卵を始めてから51日目に餌を与えにエミュー舎に入ったところ抱卵中の(雄)が突然、飼育員に襲いかかって来ました。さてはフ化日が近づいて来ているのではないかと思っていたところ5月13日に抱卵してから54日目に(雄)が転卵しているお腹の下からひなが1羽フ化してよたよたしているのが見えました。(ひな)の身長は、約22～23

cmで、頭には、白と黒の斑点が有り、首から後には黒茶色と白の縦縞があります。フ化後2日目頃からは、小さく切った餌（ドックフード、法連草、ズーフードソーセージ）等を少しづつ食べるようになりました。フ化後5日目頃より抱卵中の(雄)の回りをうろつく時間も長くなり、

舎内全域を(雌)親と歩き回るようになりました。次回の繁殖期にはもっと多くの(ひな)がエミュー舎内を親鳥と一緒に走り回っているところを入園者の方々に見ていただくために研究をしていきたいと思っています。

(福田豊光)

◆インドオオコウモリの人工哺育

2月10日に3頭の子供が生まれました。それから、1週間程過ぎて4頭の子供が生まれ、うち6頭が元気に育っています。インドオオコウモリは、コウモリの中でも最大のものです。全長は40センチ、翼を広げると1メートル20センチにもなります。インド、インドネシアに住んでいて、好んで深い森とか、小さな果樹園にいます。1,000頭もの個体が木の枝に群がっていっしょになって眠り、昼を過ごすということがあります。夕暮れどきになると、集団で行動して、バナナ、イチジク、マンゴーなどの果実を求めて飛び立ちます。体が大きいので長時間滑空はできないので、200メートルも飛べばすぐ休息をして、また飛び立ちます。当園でも果実が主食で、リンゴ、バナナ、ミカンなど何んでも食べます。4月14日の昼ごろ「コウモリが下に落ちてすぶぬれてなっている」と連絡があり、すぐコウモリ舎へ行ってみると、今年生まれたコウモリが死にそうになっていました。さっそく拾い上げ動物病院へ連れて行き、熱風で体を暖めてやると、幸いにも元気をとり戻し、お腹が空いたのでしょう、チツ、チツ、チツ、と泣きだしました。すぐ温いミルクを小さな注射器で飲ませると、少しは落ち着き静かになってくれました。

このようにして神戸では初めて、オオコウモリの人工哺育が始まりました。

最初 1.5ml~4mlと少ししか飲みませんので、3時間おきに夜中にも飲ませました。

〔逆さの哺乳〕

ところが、哺乳にも馴れ、元気になりましたが、乳の量が増えると、よく“むせる”のです。

すぐ鼻から乳をふきだします。

「なぜなんだろう」心配でなりません。いろいろ考えるうち分りました。

「そうだ、逆さの姿勢がいいのだ」母親に抱かれ、逆さの姿勢で乳を飲むことを私たちは忘れていたのです。

人工哺育を始めて2ヵ月。130グラムから340グラムにもなりました。

哺乳は一日2回。1回に50mlも飲み、ぼつぼつバナナ、リンゴを食べようになっています。

やはり、固形物を食べますと、オシッコやウンコをよくします。その時のこと、逆さのままでは、顔や体を汚してしまいます。そこはうまいものです。くると半回転。顔を上にお尻を下にしたと思うと、ピューとオシッコをとばしました。なるほど親に教わらなくとも、ちゃんと上手にやるものですね。ほんとに感心させられました。

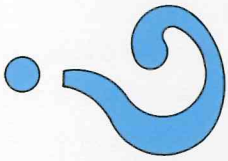
(中岡正利)



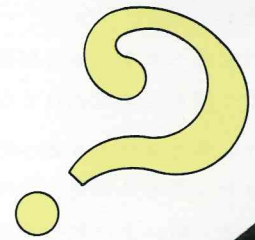


ホ
なんで

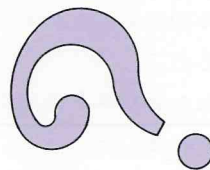
①アジア最大の動物です。
鼻が長いよ。



②アフリカの草原に住む
背高のつぼです。



正解は15ページ



て、
しょう？



③アフリカの川に住んでいる
もぐりがうまいよ。



⑥アフリカの
草原に住んでいる
顔に角があるよ。



④アフリカの草原に住んでいる
走るのが早いよ。



⑥世界中に住む
家畜です。
みんなのお友達。



飼育うらばなし

◆夜の動物観察記



真夜中の午前2時。夜行性動物舎の入口を入ると、ワニが鈍い目を光らせ、水中から陸へ、また陸から水中へと素早く動きます。昼間はあまり動かないワニ達も夜になるとよく動いています。さて動物達の夜間行動調査を始めて早や1年になりました。今回は第2報とし夜行性動物達の眠り方を中心に報告します。

〔夜と昼とを返転させている夜行性動物舎のしくみ〕

さて、夜行性動物たちは明るい日中は眠り、夜になって活動します。できれば、その夜の生活を見て頂こうと、室内の照明を時計仕掛けで24時間を逆にしてあります。

つまり、開園中（午前9時から午後5時まで）を暗くして夜の状態にしているので、よく動いています。しかし、午後6時がすぎると、昼のように明るくなってきます。

やはり自分の姿が見えるのがいやなのでしょう。こそこそと眠りはじめます。

私達は、その眠り方を観察したのです。つまり、彼等にとっては朝6時～夕方6時という時間です。

しかし、入口のワニだけは少しちがいます。照明は反対にしていませんので、夜に観察すれば当然ワニにとっては夜です。そこで昼とちがって激しく動く夜のワニを見ることのできたわけです。

さて夜行性動物は、人工的に昼にすれば、ほんとうに眠るのでしょうか。その観察結果を、次のグラフにしてみました。

〔まるで傘のように眠るオオコウモリ〕

暗くなったワニ、ベビ舎を通り、いよいよ夜行性動物舎へのトンネルを抜けると、ぱーと明るくなって真昼のようです。

最初はオオコウモリです。50～60cmもある翼をまるで傘をすぼめたような格好で、体をすっぽり包んで寝ています。よくみると息でゆれていますが、ほんとにスヤスヤ眠っています。思わず起こさないようにと、ぬき足さし足の観察です。

〔あれ、みんな同じ方向に寝ているぞ！〕

次はアルマジロです。あれ！みんな丸太の間に体を寄せ、みんな申し合わせたように、同じ方向に寝ているではありませんか。

時々くると寝返りしてお腹を上に行っている可愛さに思わず足をとめてしまいます。普通なら頭を見てチェックしますが、ずらりと並んだ尾を数える方が早いのです。

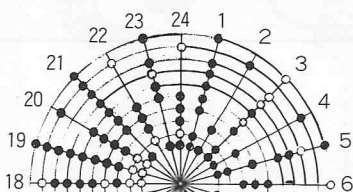
〔赤ちゃん、まん中に座って寝るヨザル一家〕

中南米の森林にすむヨザルは、オマキザルの仲間ですが、夜行性で別名フクロウザルともいわれています。

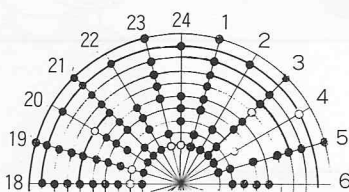
やはり明るくなったら、木の枝にとまり、赤ちゃんをまん中、一家がより集って眠ってしま



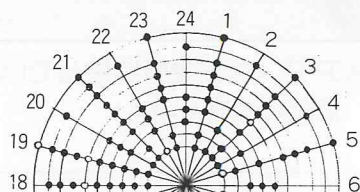
（インドオオコウモリ27頭）



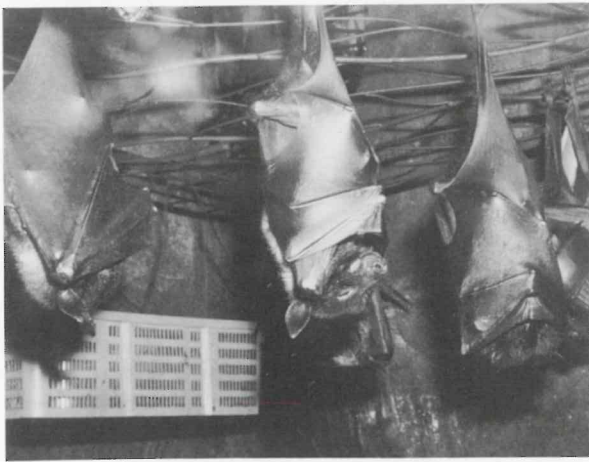
（ヨザル4頭）



（ココノオビアルマジロ4頭）



〔●眠る ○活動中〕



います。「あれ、背におんぶしているよ」

そして、午前9時開園の頃、暗くなった飼育舎で元気よく動きだします。

〔むすび〕

昼と夜を逆にした18時～翌朝の6時までは飼育舎の中は昼のように明るくなっています。つまり野生でも明るい昼は森の中に隠れて眠り、夜がくると動きだすのです。

そのことが附図にも記されています。そのインドオコウモリもヨザルも、アルマジロも、昼になった飼育舎では、ぐっすり眠っていることが確かに観察されました。

(飼育第2班・亀井一成・岸田一也・三角勝利・岡本正勝・藤井頼久・中岡正利)

◆オゾンプールで泳ぐペンギン、カワウソ

動物科学資料館に水生動物の生態を観察できる展示コーナーがあります。このコーナーにはカワウソとペンギンが展示されており、資料館の休憩ホールから水中を泳ぐペンギン等をガラス越しに見ることが出来るようになっています。

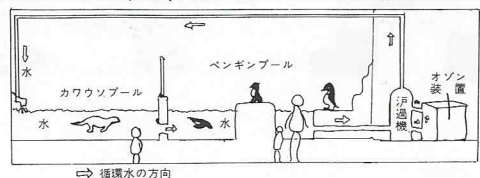
日本では、まだ珍しい施設です。休憩ホールのガラス越しに見るペンギン、カワウソの水中生態は臨場感溢れ、南極でペンギンを、ロシアの森林でカワウソを垣間見るような錯覚を覚えます。これもすべて、水がキレイで動物が良く見えての話です。ここまで来るには、色々の問題がありました。新獣舎に引っ越したのは、昨年7月29日です。日本で一番暑い日に南極のペンギン、ロシア育ちのカワウソを新獣舎に移したのですから飼育係としては、それだけで大変です。周囲はコンクリート製の通路、プールからできているため、ペンギンが歩く床が42℃にもなる状態でした。立派な資料館はできたがペンギン、カワウソがいなくて、金魚が泳ぐ休憩コーナーを想像したとき、担当者として背筋の寒くなるのを憶えました。それからは水温を下げることに苦労しました。例えば大きな氷をそのままプールに入れてはどうかという話も出ました。しかし、氷によって、ガラスが破れたら、それこそ大変ということで、この話は廃案になりました。最後に常時水道水を注入し、水温を26℃に下げ、なんとか猛暑を乗り切り、ひと安心しました。ところが、こんどは、透明度の問題が浮上してきました。水替えをしないと2日で不透明になってガラス越しにのぞいても何も見えない状態でした。他の動物園、水族館に行き、汙過器について調査したところ、当園が考えている300万円程度の汙過器では汙過

効果があがらず、他園では設置された機械が使用されず、放置されている状態でした。また、ラッコを飼育しているところの汙過器は数千万円もし、設置場所も15畳程の場所を取るため、設置できるようなものではありません。とって、毎日水替えをすると、1日4万円の水道代がかかりとても採用できる案ではありません。そこへ、三菱電気KKからオゾン注入して、白濁する色を脱色する三菱オゾナイザープール浄化装置を使用してはどうかという話が入ってきました。オゾンについては、最近、下水処理に使用されていることは知っていましたが、現在学校のプール水の殺菌等、浄化装置として使用されているとは知りませんでした。70tもの水を浄化するのに6㎡弱の空間で間に合う装置と知り、これに飛び付くことにしたのです。

三菱の担当者はこの装置を使えばすぐに水道水に近い透明度が得られるとのことですが、日本で他にペンギン、カワウソのプールにこの機械を導入しているところがなく、いざオゾン注入というときは心配で基準の半分しか入れませんでした。このため、効果は現われませんでした。次に使用限度一杯入れたところ、水は澄み、透明な水が確保され、水中のオゾンは残っていませんでした。このときやっと3月21日の開館式を無事迎えられると思ったのです。今はペンギンもカワウソも元気にガラス越しに愛敬を振りまっています。

(加納 至)

ペンギン、カワウソプールの略図



— 動物 なぜ なぜ 問答 —

●重たいゾウの足は、ウマのヒツメのように固いのですか？

重たいゾウの足は、ウマのヒツメのように固いのですか？
いいえ、ゾウの足は固くはありません。ちょうどゴム靴のように足の裏は、ぶ厚い筋肉になっていて、重たい体を支えています。つまりクッションの役目をしているのです。

だからゾウが歩いても、全く足音がしません。ノッシ、ノッシ、音もなく歩くゾウに、もし天敵が襲えば、鼻とキバで突きとばし、倒れた相手をキューと踏みつけるのです。

だから飼育係は鼻やキバ以上に足も注意しなければなりません。その足で穴を掘って水を探したり、土を頭からかぶったり、よくみていると鼻の次に前足をよく使っていることが分ります。

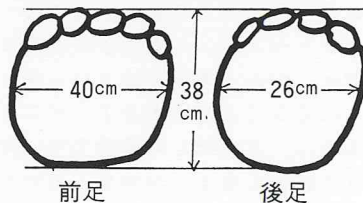
神戸のゾウはインドゾウで、オスの太郎（44才）は4.2トン。メスの諏訪子3.8トン（45才。日本一長生きしている）。

だが、ゾウは足の病気にたいへん弱いのです。ツメや足の関節に傷をうけると体の重さが傷口を圧迫してなかなか治らないからです。

（亀井一成）



足の大きさ（♀諏訪子）



●動物もアクビをするだろうか？

というたた寝でもしたくなるような暖かい初夏の昼下り。こんな時には、動物たちが気持ちよさそうにアクビをする姿をよく見かけます。それを見て微笑んでいる人間が、つられて大アクビをしている光景に出会うこともあります。

アクビは体が酸素不足になっている時に起るものです。寝不足で頭の中がボヤーとしている時などに、大きな口を開いて体の中へ新鮮な空気を取り入れるのです。人間のように熟睡する機会が少ない野生動物は、人間以上にアクビを必要としているかもしれません。

でも、アクビのように見える動物の動作は、実は酸素不足ばかりが原因ではないのです。では何のためなのでしょうか？

大きな口を開けている動物にオスが多い、というところにその答がひそんでいます。

口の中でひときわ大きい牙を見せつける。「わいは、強いんやでー」と相手を歯で威嚇する。それがアクビのように見える動作の理由です。

マントヒヒの雄などは私の姿を見かけると、オリの中を動き回り何度も大きなアクビをします。私が歯を見せると、よけいに興奮して牙をむき出すのです。

牙の大きさでサルに負ける人間は、サルの前でアクビをしない方がよさそうです。

（村田浩一）



動物もの知り手帳

～なんでも知っちゃお!～

血統登録のお話し

動物園の人気者、ゴリラ、チンパンジー、キリン、サイ、カバ、可愛いレッサーパンダ。

いつまでも見飽きない動物達がーパイいます。

でも、動物達にも寿命があります。ほとんどの動物達は人間の寿命よりうんと短かくて、ほぼ20年ぐらいです。

もし、この動物達が死に絶えてしまったら、動物園ではもう見るができなくなってしまいます。それなら、又野生の動物を獲えて来ればよいではないか、と思う人もあるでしょう。

しかし、今は世界中の国々が自国の野生動物を保護しております。ワシントン条約、ということばをニュースでお聞きになったことがあるでしょう。この条約によって簡単に国外に動物を輸出入することが出来なくなっております。

日本の動物園だけでなく、世界中の動物園は今飼育している動物達を将来に渡って死に絶やすことなく、元気な子供達を育てて行かなければならないのです。

さて、このためにはどうしたらよいのでしょうか。

皆さんがよく知っている言葉で云えば、「血が濃くなると好くない、(血族結婚は悪い影響が出て、丈夫な子供が育たない)」ということです。血族結婚をさけるためには一頭ごとに動物に番号を付けて、先祖が誰であるかを知り、出来るだけ血の濃くない結婚を選ばばよいわけです。このため、より正確に親子、兄弟、姉妹の関係をつかむために、今、日本の動物園では、貴重な動物(野生でも大変数の少なくなっている動物)に登録番号を付けることをやっています。この登録番号を付けるために、それぞれの動物園がある一つの動物の登録責任者となり、記録の取りまとめと、どこの園の子供とどこの園の子供を結婚させれば良いという助言をすることも重要な仕事となります。

日本での稀少動物の登録は次の24種ですが、これからもこの種以外にも増える予定です。

オランウータン、ローランドゴリラ、チンパンジー、シシオザル、サイ、アムールトラ、ホッキョクグマ、チーター、レッサーパンダ、コアラ、ラッコ、マレーバク、グレービーシマウマ、マナヅル、ナベヅル、カンムリシロムク、ワシ、タカ類、コンドル、アシカ、アザラシ、イルカ、クジラ類、タンチョウヅル、ニホンカモシカなどです。

当然、これらの動物達は国際的にも登録されており、世界のそれぞれの動物園が登録責任者の仕事をしております。ニホンカモシカ、タンチョウヅルは上野、多摩動物園が責任者となって世界中の動物園に向けて血統登録管理の仕事をされています。

王子動物園ではこの内の12種の動物を飼育しておりますし、この内のアムールトラについては日本で最初に飼育し、繁殖に成功しており、この子供達が日本のあちこちの動物園で幸せに結婚生活をおくっております。又元気な子供達を育ててくれています。それでアムールトラの国内登録責任者の仕事を引き受け、将来の日本のアムールトラの良好な子孫を残すための仕事がこれらも続くことになるわけです。

さて、ではどのようなしくみでこれらの動物の登録制度が決まるのでしょうか。

国際自然保護連合(IUCN)という組織があります。このなかに動物の種保存委員会(SSC)があり、99の専門家グループが72種の動物達を野生に復帰させる試みをしています。このグループの提案が国際動物園長連盟(IUDZG)に出されます。この連盟が種保存委員会に回答してどの動物を重点的に保護育成するかを決めるわけです。

この結果、飼育されているその動物の血統、家系を正確にし、次代に引き継ぐべき子供達を作っていく繁殖プログラムを設けて、実行にうつすことになっています。

少々お話しがむつかしくなりましたが、今や世界中の動物園関係者が貴重な自然からのあずかりものである動物達の保存、繁殖のための仕事を協力しあっているのです。二度と絶滅する動物達がないように!



(権藤真禎)

動物科学資料館の手引①

～楽しく見るために～

今年3月21日にオープンした動物科学資料館はなかなかの好評で、日曜や祭日は入場制限をするほどです。今回からシリーズで館内の施設や展示物を解説いたします。

◆導入展示

1. 動物のすむ環境

地球上には、数多くの動物たちが住んでいます。それらはすべて同じ地域に住んでいるわけではありません。さまざまな環境があり、そこに住む動物たちの形態や生活もそれぞれ異なっています。動物たちはその環境に応じて工夫しながら力強く生きています。



(ゴリラの森)

このコーナーでは、地球上で動物の住む10ヵ所の地帯を選び、写真や分布図、イラストを美しいカラーコルトンで紹介しています。

北極、タイガ、温帯林、草原、砂漠、熱帯雨林、サバンナ、高山、オーストラリア、南極のコルトンがあります。

2. ゴリラの森

現在アフリカには、約12,000頭のゴリラが住んでいます。ほとんどが西アフリカに集中しています。中央アフリカの高山地帯に住むゴリラはマウンテンゴリラと呼ばれ、絶滅の危機にさらされ、もう200頭ぐらいしか居ません。そこで、このマウンテンゴリラの生活状況を実物とそっくりな模型で再現しています。

赤道直下のルワンダとザイールの国境であるビルンガ死火山群の海拔3,000～4,000mの森の中で、マウンテンゴリラの成獣オスがハゲニアという大木の下で巣を作り、どっかりと座っているところへ、

5才の息子が朝のあいさつに来ます。オス親は時おり聞える物音に感ずいて頭を動かし、目を光らせます。しかし何事もなかった様子に安心して、語りかけるように息子をながめます。

このような場面とストーリーのもとに、実物と見違えるほど巧妙に作られ、入館者を驚かせると共に動物への感心を起こさせます。



(動物のすむ環境)

(谷岡正之)

トピックス (62年2月～62年6月)

◆こうべの動植物園パネル展開催

神戸市の5施設(王子動物園、六甲山牧場、森林植物園、須磨離宮公園、須磨水族館)が共同して、3月12日～25日まで北野・ラインの館でパネル展を行い、来館者の興味を誘いました。

◆「旧ハンター住宅」春の内部公開

園内にある異人館、「旧ハンター住宅」の内部を4月2日～31日まで一般公開しました。この「旧ハンター住宅」は、神戸市内にある異人館の中でも最大のもので、王子動物園のシンボルの一つです。



◆動物科学資料館3月21日(土)オープン!

昭和59年より建設していた動物科学資料館が去る3月21日に堂々オープンしました。当日は、午前10時からオープンセレモニーを行い、宮崎辰雄神戸市長ら約300人が出席、テープカット、くす玉割りの後、通り初めを行いました。その後、午後1:00より一般公開し、オープン記念の催物として立体映画上映、館内にある動物世界地図の数当てクイズを実施しました。この動物科学資料館は予想を上回る人気で、5月21日には入館者が20万人を突破するなど大好評を得ています。

◆中国・天津市へ動物贈呈(5月27日)

神戸市の友好都市である天津市へ、チンパンジーの雌1頭とクロエリハクチョウのペアを贈りました。この動物交流は今年で11年目を迎えますが、今後ともますます発展していくことを願っています。



◆動物をはかる会開催

計量記念日にちなみ、神戸市計量検査所と共催で6月7日に開催しました。今年の動物は、ゴリラの「健太」雄10歳。リハーサルの際は素直にはかりのりた健太君も、いざ本番になると前をとり囲むカメラマンや子供たちに興奮してか、なかなかうまくのりません。それでもどうにか30分後、はちみつにつられて健太君がはかりのりしました。結果は205kg、他の同年代のゴリラに比べるとなかなかスマートです。



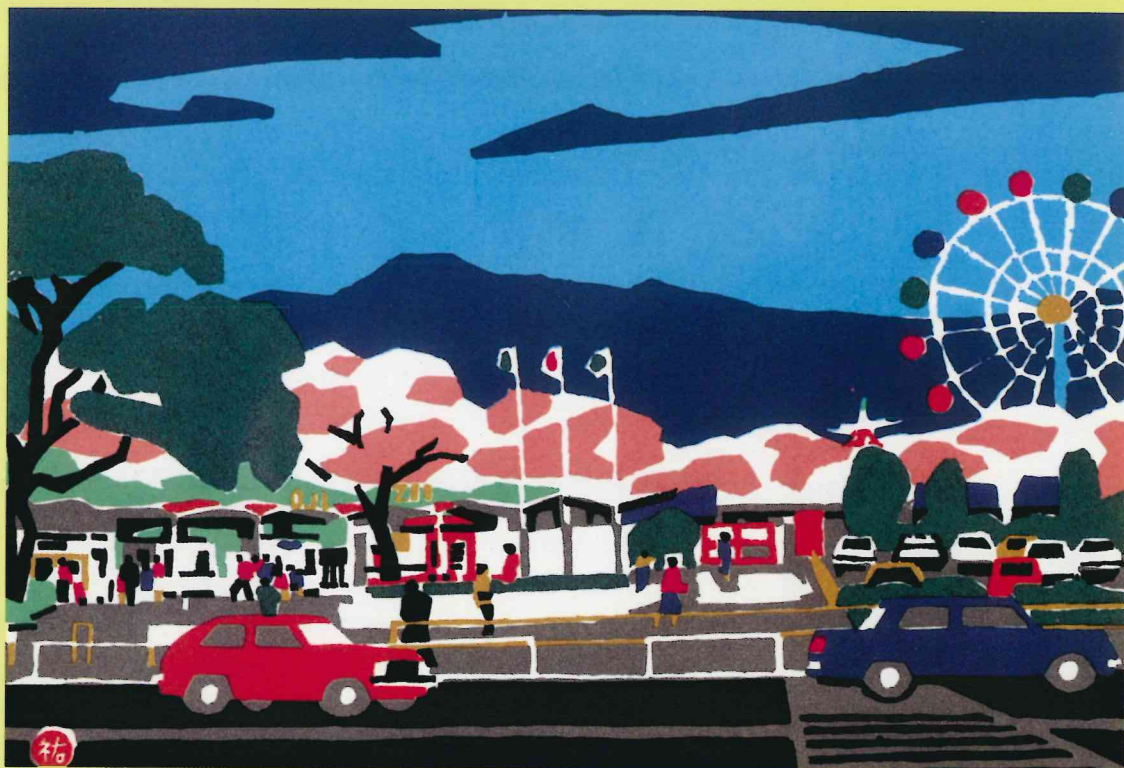
◆今年もベビーラッシュ

2月から6月にかけて、フラミンゴ(6/30現在28羽)、アシカ、インドオオコウモリ、カニクイザル、果下馬などが生まれました。王子動物園の新しい仲間として健やかに育ってくれることと思います。

(村井秀徳)

クイズの答 ①インドゾウ ②マサイキリン ③カバ ④グレービーシマウマ ⑤シロサイ ⑥ウマ

版画で見る王子動物園 (その5)



動物園入口

桜の花満開の4月大観覧車が見える楽しい雰囲気。国画会日本版画協会会員で神戸出身の著名な版画家、川西祐三郎先生にお願いして、王子動物園を版画で描いて頂きました。園内売店で5枚セットにして販売しています。

◆編集後期◆

はばたき22号をお届けします。今年は、ついに動物科学資料館がオープンしました。この素晴らしい施設をより有効に活用し、さらに内容を充実させていくことが私達の使命だと思われまます。そういう意味で、これからの王子動物園を大いに期待し、また励ましていただけたら、と思います。



はばたき 第22号

昭和62年7月20日発行

編集：神戸市立王子動物園
TEL. (078)861-5624

発行：神戸王子動物園協会
TEL. (078)801-5711
神戸市灘区王子町3丁目1

印刷：梶原出版印刷合資会社